

第6回 先端ファイナンスビジネス研究会

日本国債の電子取引

— 透明性・効率性・流動性向上のために —



講師：エンサイドドットコム証券代表取締役社長 角間和男氏

日時：11月22日（木）16:30-18:00

参加：自由（事前登録の必要はありません）

場所：総合研究2号館・大講義室

お問合せ： 経済学研究科 附属プロジェクトセンター
加藤康之/遠藤富貴子

Mail kato@econ.kyoto-u.ac.jp

Tel 075-753-3429(加藤)/3443(遠藤)

日本国債市場は、米国債市場と並ぶ世界最大規模の債券市場です。慢性的な財政赤字を背景にその規模は今後も拡大を続けていくことが確実です、将来の日本の金融市場は、少なくとも量の面では、家計部門から政府部門への資金の流れを金融機関が仲介するという流れが大部分になる可能性が高いと考えられています。したがってこの流れを円滑にするためには、国債の円滑な消化、そしてそのベースとなる国債流通市場の整備が極めて重要だと言えます。

最近10年程度の国債市場は官民連携した市場整備の取り組みが非常にうまく機能したこともあり、日本国債市場の流動性は著しく向上し、結果的に投資家にとっての執行コストは大幅に低下しました。その中の一つの取り組みが電子取引インフラの整備です。株式などに比べても電子取引が馴染み難いとされてきた債券市場で、その取引規模は緩やかながら拡大の兆しを見せています。

今回はこの国債電子取引の媒介を行っているエンサイドドットコム証券のプラットフォームの紹介と、そこで取引データから日本国債市場の流動性について分析した結果について解説したいと思います。市場参加者以外の方々にとってはわかりにくいとされる債券市場について理解を深めていただける機会になれば幸いです。

<先端ファイナンスビジネス研究会の趣旨>

ITや金融技術の進展は金融ビジネスを大きく変貌させている。それは、リーマンショック以降も同様である。ファイナンスビジネスは伝統的な業態（銀行、保険、証券など）を中心とした構造から、新たな付加価値をもたらす新しいプレーヤーが大きな影響力を持つようになって来ている。広く金融市場、企業ファイナンスを理解するうえで、これら新しいプレーヤーの役割を理解することは必須となっている。

「先端ファイナンスビジネス研究会」では、これらの新しいプレーヤーを理解することを目的とし、各分野の実務担当者を招き講演、自由討議を行うものである。